



静中・静高関東同窓会  
 会報 第31号  
 平成3年6月21日発行  
 編集人 上杉重吉

# 静高の校風と伝統に想う

—— 着任一年を経過して ——

静岡高等学校長

石田 德行



静高生文化の創造を目指す生徒諸君の並々ならぬ熱意と興奮を痛感しました。こうした一連の行事や生徒諸君の行動をみておきますと、つくづく、静高の古い伝統と個性ある校風を感じざるをえません。

## 二

過去の事実が物語っているように

に、静高には、百十余年の伝統を基盤に、自由と自治というすばらしい校風が確立され、その校風と伝統は代々後輩に、そして現在の在校生諸君にまで継承されています。校風は、学校の顔であり、伝統は、学校の心でもあります。そしてこの両者は、相互に作用し、刺激し合って学校を活性化させます。

「岳南健児一千の

理想は高し 富士の山」

にはじまる校歌を歌うとき、静中

・静高百有余年の歴史と伝統が一瞬のうちにこの一節に凝集し、静中・静高にかかわりのある者は、どこに居ようとも、襟を正して母校を誇り、懐かしみ、かつ歓喜し、涙して感動と興奮のひとつきを過します。

私も、静高のますますの発展のためにも、生徒諸君に、このすばらしい校風と伝統の正しい継承者であり、新たな創造者としての役割を期待しております。本校の生徒会組織である自治会も、これまた永い伝統を誇り、集団としての自浄作用を正常に機能させながら、会員諸君の自由と自治を保障しつつ、新たな校風の創造を目指して努力しております。

## 三

近年、高校進学率九十数パーセントという進学状況を反映して、

静高にも多様な個性をもつ生徒諸君が入学してくるようになりました。こうした状況の中で、静高の今後の課題は、在校生諸君が、諸先輩の努力をどう学び取り、自由と自治の原則を、自らの生き方とのかかわりの中でどのようにわきまえて、新たな校風の創造を目指すかにあると思います。そのためにも、先年亡くなられた池田潔さ

んが、若き日、イギリスのパブリックスクールと大学で学んだ「自由と規律」の関係、別の言葉でいえば、「自由は規律をとめない、自由を保障するものは勇気である」という尊い体験を、在校生諸君に是非とも本校の生活の中で追体験してほしいと思いますし、またそうさせることが私どもの責任でもあると考えます。

去る四月十九日、第十四期中教審の答申が文部大臣に提出され、その中で「高校教育の個性化」が強くうたわれております。古く、県下の五中学が本校に合併された事実を象徴する校章の面子にかけ、静高は、今まで培われた伝統を基盤に、新しい時代を先取りした校風を創造し、二十一世紀に向けて大きく飛躍することが期待されます。

私も、生徒諸君と共に、静高にふさわしいスクール・アイデンティティの確立を目指して努力して参りたいと存じます。関東支部のみなさま方におかれまして、今後とも、より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

静中・静高同窓会関東支部のみなさま方には、日ごろ、いろいろ

と母校へのご支援ご協力を賜わり心から感謝申し上げます。私もこの四月で、本校に赴任して一年が経過しました。この機会に、若干の所感を申し述べ、みなさま方の一層のご理解ご協力をいただきたく存じます。平成三年度も二ヶ月余りを経過し、新入生諸君もようやく学校に慣れ、先輩諸君とともに明るく、元気で頑張っております。今月初旬に行われました恒例の印高祭も、伝統ある仮装行事を中心に、

◆ 静高の同窓会活動 ◆

# 同期会など

## 四三期

吾々のクラスの者は今年で八十路を越えた。昨年十一月二十一日銀座一丁目の二葉寿司店で忘年会を兼ねて東京四三会を開いた。

大阪から常連の平山桂君が前日の静岡四三会の三笑会と城内東小学校のクラス会に出席されたのを機会に、足を延ばされて静岡からの出席者高須彰君と同道で出席された。

地元からは池谷三郎・倉沢栄吉・嶋田富治雄・三宅静雄・柳沢保雄・吉江誠一君と私が出席した。环晴行・今井志郎・三好由三郎の三君は残念ながら所用で欠席された。

此の所、年と共に病氣の方が多くなり、小河直人・北里良夫・田崎茂夫・長戸寛美・松下篤三・望月孟夫・山家清・山村忠雄君等は療養中のため欠席されたが一日も早く快方に向われることを祈る。幸いにして各位はますます御少康を保たれておられるのが何よりである。

会場は柳沢君の馴染みの店で近

くの築地市場からの仕入れで頗る寿可種も見事で、当日は吾々のみの貸切りで、酒も生一本、女将のフットホームの歓待で、一同大満足であった。

四三会も回を重ねること九十二

回で吾々が米寿のときには第百回目を迎えるし、毎月二十日に開いている三笑会の昼席も丁度二百回となる。これからはお互いに自重して八十路に更に年輪を重ねて、その日を大勢で迎えたいものである。

時間もすっかり過ぎたので次の出合いを楽しみに、遠来の平山・高須二君をお送りして解散した。

### 出席者

吉江誠一 嶋田富治雄 池谷三郎 柳沢保雄 高須 彰 倉沢栄吉 三宅静雄 西沢純三 平山桂 (西沢純三)

## 五一期

私達の期は「五一会」と呼ぶことは前号でも紹介致しました。毎年春は東京、秋は静岡で集まりま

### その後の同窓会活動

(平成2年12月~3年5月)

#### ◇幹事会

12月19日(水) 18時~  
新日本証券地下一階食堂  
出席者: 44名

・平成2年度行事のまとめ  
3年度事業予定  
会報30号発送の依頼 など

#### ◎会報30号発送の協同作業

幹事不在の期、幹事会に幹事欠席の期の会員に対し未発送の会報約千二百通の宛名書き: 2月2日(土)午後1時~6時、「大雄」設計事務所所に西沢(43)奥野(53)上杉(60)荒谷・大川(68)の五氏と山田氏が集まって作業。

#### ◇新年懇親会

2月6日(水) 18時30分~  
新日本証券地下一階食堂  
会費: 3千円

#### ◇幹事会

4月22日(月) 18時30分~  
新日本証券地下一階食堂  
出席者: 32名

・平成2年度会計報告  
総会打合せ など

#### ◇幹事会

5月10日(金) 18時30分~



すが、その通算第四一回目を去る四月五日(金)例年通り築地スエヒロで行いました。出席者一七名は丁度一年前と同数でした。その内訳は後記の通りです。今回は例年になく出席者の多くが返信はがきの「近況等」の欄に消息を記入して下さいました。欠席者の近況等を読みますと全五三名のうち所用その他の都合が二九名、健康等の理由が一四名(記事なしが一〇名)で、まだまだ皆さん御元氣と見受けられます。欠席の方々には例年の様に全員のお便りをそのまま列記して送りました。その前書きは次の通りです。

「当地では桜も満開を過ぎました。早速ですが去る四月五日(金)東京築地スエヒロで行いました東京五一会は昨年同様一七名出席で午後五時頃には殆ど全員揃い、私だけ丁度定刻に駆け込みました。終始話が尽きず時間も会費も超過し楽しいひと時でした。散会は九時前でした。

この連絡は欠席の御通知を頂いた方五三名にお送りします。来年はぜひお出掛け下さい。皆様の近況をそのまま収録し別紙としました。」

出席者のうち渡辺寛孝君は久々の出席で最後に返事がありました

が希望として、「皆さん歯の悪い方もおられると思いますので肉などのカタイ品は考慮して下さい」と寄せられました。

出席者は次の通り。(返信の到着順、敬称略)飯田鉄雄、原崎郁平、林盛次、寺尾利男、森弘、狩野安彦、大富部国男、永井五一郎、蘆田正之、宮野守信、高橋達郎、下山富太郎、広瀬毅、玉越俊一、牧野三郎、渡辺寛孝、佐伯正剛の以上十七名。(佐伯正剛)

五三期

総会

今年の総会は静岡の浅間神社二十日会祭(近頃は静岡まつり等と称して観光商業まつりになっている)に合せて四月一日、二日焼津の松風閣一泊で行われた。ここは虚空蔵山の北側、海に臨む断崖の上で駿河湾を一望にする絶景の地である。出席の級友三六名、同伴夫人四名計四十名。この中遠路の参加者は福岡、近畿、東海、金沢、関東から夫人二名を含む十六名、金沢からの高山重治君は卒業以来の再会であった。

午後四時開会、清水四麻夫君の司会で先ず物故者特にこの一年間に亡くなった長谷川一郎、大橋百蔵両君の霊に黙禱。次で中村孝次

郎君の開会挨拶、海野武君会計報告、仲野善二君監査報告、又関東の奥野孝、関西の志田清両君からの地域近況報告、松永文夫君叙勲の披露と同挨拶の後、五十三年振りの高山君乾杯の音頭となったが故旧再会の感極ったか声にならず一同も目頭に来るものをビールと共に飲み干した。

懇親の座は暫くすると何となく昔の仲間同志をもちに集り、互に体調や趣味から来し方の苦勞話等を語り合う中に、気分は中学生の青春に還って和やかな静岡弁の話しが賑がり時の経つのを忘れた頃、八時中締めには芹沢君の中国語入り挨拶と水野君の狂言小謡も目出度く清水君の三本締めで閉会したが、部屋に引上げても感興は仲々尽きず、話しは深夜まで聞えていた。

翌朝は朝湯の後、八時までに各自自バイキング朝食、九時ロビーで幹事諸君の見送りに来年の再会を約しつつ思い思いに解散した。

尚、席上総会を関東又は関西で行う案が出され、一応来年は関東の担当とし静岡と協議しつつ企画する事となった。今後関東では奥野君を中心に計画を進める事になるであろうが、皆で協力分担する必要があると思われので級友諸

君を中心とする事になる

兄よろしくお願いしたい。特に会場イベント等良い案や筋をお持ちの向は奥野君まで御連絡下さい。総会出席者名写真説明の通り。長谷川君の一周忌法要

第三回叩高会ゴルフ

5月15日箱根カントリークラブ 参加者26名

五月晴れではありませんでしたが、気持ちのよい山の空気が新緑で一杯の箱根、叩高会ゴルフに今回も参加させていただきました。殆んど雨にもぬれず、プレーが終りのんびりと風呂から出て来ますと、私が優勝したという想像だにせぬハッピーニングを知らされ、我ながら驚いてしまいました。

私のゴルフ歴は永いだけで、下手のうえに練習もせず不熱心でありますので、この度の優勝はハンディと年齢のお情けと、ご一緒にプレイさせていただいたベテランの上杉、清水、そして石川の諸兄のお陰であります。

思い出しますと、学生時代は戦

新日本証券地下一階食堂  
出席者：40名  
・総会打合せ  
総会案内状の発送依頼 など  
◎第3回叩高会ゴルフ会  
5月15日(水)  
箱根カントリー倶楽部  
参加者：25名  
優勝：岩井平一郎(57)  
2位：平岩正史(87)  
3位：大石巖(53)

時中で、充分スポーツが出来なかつた頃に比べ、戦後五〇年近く過ぎた現在、美しい緑の自然の中のゴルフは少し年を取った私にも腕は別としても本当に楽しくありがたいことだと思っております。

特に箱根カントリークラブは日本でも有数の、歴史のあるゴルフ場の一つで、仙石原の雄大な景観は、殊に春と秋には最高のものでありましよう。この様なゴルフ場でプレー出来ますことは、大石会長と秘書の山崎さんのご配慮は勿論、奥野副会長をはじめとする皆様のお陰だと、叩高会を代表して重ねて厚くお礼申し上げます。

次回もまた、大勢の同窓生とともに参加させていただくことを楽しみにしております。

(57期 岩井平一郎)



奥野、司馬、鈴木、中村、長阪、福地、月見里が参列し悲しみの中に焼香冥福を祈った。墓参の後兩替町あなごやに精進落しの席が設けられて長谷川夫人の挨拶があり生前の逸話等に故人を偲んだ。

叙勲

市川鉄男君 勲四等瑞宝章

同君は永年岐阜県の高学校教育に尽力し県立多治見工業高校長を最後に引退したが、その間の教育功勞に対し昨年十一月三日叙勲された。

松永文夫君 勲五等瑞宝章

同君は永年建設省に勤務しその間九州地域における多くの合同庁舎の建設に画期的な設計を採り入れる等の功績に対し今回受勲の内示があった。(月見里得知郎)

写真説明

前列右から伊藤正民(杉浦)、川手貞一、松永文夫(小田)、小嶋操、高山重治、新村欣一、市川鉄男(牧野)、杉山滋夫、榎矢三千夫

二列目右から小宮左一郎、塩田一二、清水知行、宗三様、山菅章雄(村松章七)、水野尚、芹澤五郎、志田清、山川林平

三列目右から海野夫人、中村夫人、松前新太郎、海野武、鈴木巖夫、司馬速、佐野徳太郎、望月芳郎、

仲野善二、奥野孝、片田政男、杉山夫人、松前夫人、長阪光夫  
後列右から中村孝次郎、堀野高(伴野)、園田芳男、月見里得知郎、福地誠也(曾根)、宮澤四郎、清水四麻夫、松永脩蔵

( )内は旧姓旧名、敬称略

五七期

前にも書いたことでダブルが、五七期関東会は「岳南会」と称して、年三回の定期会合を行っている。この一年では、昨年八月七日、十一月七日、そして本年の二月七日に開催した。時間は夕方五時半から二時間ほどである。集まる面々は十一名ぐらいである。場所は東京駅八重洲北口の国際観光会館八階のカウベルというレストランである。

安くて、無論、足の便もよい。月見里君の顔の広いところから紹介してもらった。また同君が副社長をつとめる凸版印刷の社長室秘書、松本さんにも、開催案内、会計など世話をいただいた。記して感謝の意を表したい。年輩のせいか、会合では病気の話が多いのも止むを得ないか。

(影島利邦)

六四期

前夜より天気予報は明日の降雨率一〇〇%夕方にはあがる、との事で当日朝六時には雨、過去十一回ゴルフ大会を開催したが、雨だった事は一度もなかったのに。

空を見上げて、ウーン、開催日の設定が悪かったのかな、フェアウェイが緑の「じゅうたん」になるのはこの月日しかない。しかも昨年秋季に来年四月の木曜日と決定したことだし、仕方ない、ゴルフ場に着いて大雨だったら朝から一杯やるか、こんな気持で四月二五日東京駅を出発した。

車中、岩木、浅井両君と、大雨だったらどうする、お互いブレいをしてほしい気持ちは半分、風邪をひき寝込んで困るのが半分、空を観て、雲が切れたね、この分では誰が来そうもないね等々話しながら新富士駅に八時十一分到着した。駅前のタクシーに乗り行先を告げると、運転手が開口一番、お客さん三〇分後には晴れるよ、ほら西の空が明るくなって来てるし、富士山の上の方だけしか雲がないからね、今日は下がぬれているから「キャリア」でしっかり打つんだね、と静岡弁で教えてくれた。白糸の滝近く迄登ると、完全に雨は

止み、周囲の山々が新緑にもえて  
美しかった。

### 七一期

#### ゴルフコンペ報告

春のゴルフ大会は、東京・静岡  
合同で小田急富士ゴルフ倶楽部  
で開催、参加者は十四名、エント  
リーした者全員家を出る時は雨の  
中にもかかわらず集合し、日頃の  
精進の賜で曇後晴の中激しく、し  
かし楽しく争った。優勝は前回二  
位の佐野旭君、二位は久しぶり実  
力をみせた渡辺宏一君、三位村上  
喜代二君、B B は岩本吉雄君、「メ  
ーカー」渡辺素夫君。他の参加者  
……猿谷秀雄、神谷武男、山本和  
彦、浅井幹夫、稲森照男、伊藤剛、  
石原良昭、漆畑輝夫、野沢正憲。  
永田進一君の御母堂急逝のため欠  
席、謹んで御悔み申し上げる次第。  
ゴルフ大好きの風間政彦君は風邪  
のため、新井彰君は役所立会い検  
査のため、秋山義明君も県医師会  
用事のため欠席。

本年十月六日又は十三日に秋の  
ゴルフ会を挙げる事で意見一  
致。なお、永年三越デパート勤務  
の益頭尚文君退職、目下悠々自適  
の生活開始。山本光夫君が六〇才  
して会社設立、社長に就任、プ  
ライダル業とのこと。  
同期会は七月五日(金)の予定、  
是非出席して下さい。

(野沢正憲)

「第二十五回七一会ゴルフコン  
ペ」は平成三年四月十八日(木)  
富士宮ゴルフクラブ、午前十時ス  
タートで開催された。幹事は鈴木  
崇生君。  
たまにはウィークデーに、とい  
う会員からの希望と、昨今のゴル  
フブームによる日曜祭日のコンペ  
スタートが大変困難になっている  
等の事情で、今回はウィークデー  
の開催となった。

六組二十一人のエントリーが、  
結局は四組十六人で、静岡組十一  
名十一ギヤラリー、関東組五名十  
二ギヤラリーであった。  
七一会ゴルフコンペは、昭和五  
十三年の母校百周年をきっかけに  
集まった七十一期有志の発意で話  
がまとまり発足したものの。翌年の  
五十四年三月十日、第一回コンペ  
が二十名の参加者を得て富士ロイ  
ヤルカントリークラブで開催され  
た。以来、春秋年二回の開催を原  
則に今年で十三年目を迎える。会  
員数は六十六名、常時二〜三十名  
は参加するので活発な会と言えよ  
う(ただ、幹事によれば、ナシの  
ツブテの会員が多くて困る、と嘆  
くことしきりだが)。

(野沢正憲)

第二十五回コンペの当日は、幹  
事の祈りも虚しくあいにくの春の  
嵐の到来。関東組にとつては故郷  
のナマリと眼前に望む富士の雄姿  
を期待していたが、肝心の富士は  
まったく姿を見せず、雨と風ばか  
りが強まり後半もなかばで打ち切  
らざるを得ず、結局ハーフ九ホー  
ルのコンペとなってしまった。  
また、当コンペ常連の矢沢久美  
君、片山守彦君の病欠は寂しい限  
りであった。一日も早いご回復と  
当コンペへの復帰を待ち望むのみ  
である。

さて、当会の自慢はなんと言っ  
ても優勝杯。そんじょそこいらの  
出来合いのカップとは訳が違う。  
今回幹事の鈴木崇生君ら初代幹事  
が美術ご担当の恩師大村正夫先生  
に頼み込んで彫って貰った貴重な  
能の舞姿像。本体高さ四十一・五  
センチ、重さ八キログラムのプロ  
ンズ製で、時価数百万はすると言  
われる代物である。

会員の誰しもが、ぜひ一度は自  
分の手にして、自宅の床の間に飾  
ってみたいと願ひ、今日も黙々と  
素振りに励んでいるのである。  
ちなみに今回の優勝は地元の中  
野晃治君でネット三十九・五(ハ  
ーフ)。次回の中野幹事は、秋に  
朝霧ジャンボリーでやろうと張り

切っている。第二十六回コンペに  
も大勢の同期諸兄諸姉の参加を期  
待したい。(石川 宏)

平成三年も早四月中旬、桜の  
花も散る頃となりました。今年ほ  
ぐずついた日々が多く、せつかく  
の桜の花も、ちょっぴり残念だと  
思っている事と思います。  
静岡・静岡高七四期生の近況は：  
去る三月三十日(土)、静岡市内  
浅間神社の近く、喜久屋さんで、  
静岡在住の幹事の方々と、東京地  
区の幹事の代表とで、合同幹事会  
を開催いたしました。  
二十数名の参加を得、久しぶり  
に楽しい一時をすごすことが出来  
ました。一次会、二次会、三次会  
と夜が更けるまで学生の頃を思い  
出し、忘れていた学生の頃の「い  
たずら」が思い出されました。  
同期の中で芸術関係者も多く、  
版画家の牧野宗則氏、宝扇堂の浦  
田周社氏、彫刻家の前島秀章氏も  
参加されました。女性の参加がな  
く残念でしたが……。喜久屋さん  
の責任者が六十期生の大先輩でお  
世話になりました。ありがとうご  
ざいました。  
自己反省……：静岡・静高会、関  
東地区の七四期生の幹事でありな

### 七四期

がら、いつも総会の日、会社行  
事が重なり、諸先輩から「おしか  
り」を受けております。  
シームルテック・エンジニアリ  
ングの佐藤鐘司さんにはいつも代  
理をしていただき感謝しておりま  
す。この紙面をおかりしましてお  
詫び申し上げます。(藤原經史)

◎各期の幹事はぜひ幹事会へ  
出席してください。もし欠  
席の場合は代理の方に依頼  
を！

◎幹事が未定や不明の期では  
至急幹事を選定して、事務  
局まで連絡してください。

富士通電子デバイス特約店・OA機器販社

## 東海デバイス株式会社

(旧社名 東海電気工業株式会社)

代表取締役社長 清水照彦 (61期)

本社 東京都目黒区目黒4-6-33

TEL03-3791-1181(代) FAX03-3715-1558

# 回想・随感・近況など

## 大正時代の思い出

43期 西沢 純三

私の故郷は信州で、本家は今では長野市内になったが郊外にある光蓮寺という東本願派の寺院である。私の父の曾祖父が此所の出である。

父は長野で育ち中学を出てから青山学院へ進み、中学校の英語教師になったが、先祖代々医者であったので、発心して慈恵医大の前身の専門部へ入り医者となった。更に海軍軍医学校へ進み軍医となった。

日露戦争の時は当時の武蔵(第二代)に乗艦していて、津軽海峡を警戒していたという。終戦後佐世保海軍病院に勤務し、退官後に先輩の奨めで故郷を離れて静岡へ移り、鷹匠町二丁目(現在静岡精米会館のある所)で開業した。

私は其処で明治四十三年(一九〇年)に生れた。この家には今度の戦災で焼け出されるまで兄家族が住んでいた。この年は一月にハレー彗星が地球に大接近した年

であったが、この彗星は七十六年の周期なので一九八六年に再来したので私は七十六年目に再会したことになった。

八月には台風で安倍川の堤防が決壊して、市の中心部は大洪水で宝台院の本堂も水浸しになったのである。更に四年後にも大水害があったがその後安倍川の改修が進んだ為、こんな事態は起らなくなった。

日本は日清・日露の両役で東洋の盟主の地位を築いたが、十九世紀の大韓帝国は、露西亜の南下政策、英仏の中国進出による圧迫で

当時の執政者の大院君(タインクン)も失脚し、賢夫人の誉れ高かった国母閔妃(ピンピ)も秘密裏に暗殺され、高宗も日本の強要で退位し最後の皇帝純宗が即位したが、明治四十三年八月二十九日遂に日本に併合され讓位詔書、日韓併合条約を發布、朝鮮総督府を設けた。昭和二十年八月十五日に日本が降伏するまで三十五年間隸属させられることとなった。

また十一月には南極探検の白瀬

中尉も開南丸で出発している。一九一〇年はハレー彗星により明けたが、本当に大事件の多い年であった。

大正になった頃の暮しぶりは炊事も風呂も殆んどは家庭では、薪を使っており、わが家でも縁先の押入には石油ランプが入ってお



り、毎日このホヤを磨いていた。その後、天井にはガス灯がつけられ青白い光を放つようになった。

当時の街灯は石油ランプで、夕方になると脚立を担いだ人が、小走りに廻り歩いて次々に点灯していった。

私の一番古い記憶は幼時の時に迷子になり陸高(クマタカ)橋の交番(新静岡駅の角にあった)で保

護されたことである。

家の北側は広々とした田圃で、水が張られているときは逆さ富士が美しい姿を映していた。

第一次世界大戦で中国山東省の独逸領であった青島(チンタオ)を日本軍が陥落させたときの提灯行列ではカイゼルの兜首を槍先に刺したのを担いで歩いていった印象が残っている。

広々とした田圃が埋立てられて、捕虜收容所ができて、遊んでいた捕虜から鉄条網の昇越しにキヤラメル等を貰ったりしたのも、その中に服を落して拾ってもらったのが切っ掛けであった。

市内の交通も殆んどが徒歩で、大八車、馬力車、人力車などで、自転車も少なかった。久能行は乗合馬車であった。父も徒歩や人力車で往診をしていた。

横内町の水落先に同仁教会ができて、その日曜学校に行っていたが、十二月のクリスマスは楽しかった。

城内尋常高等小学校に入学してからは、横内橋から城内に入り、静岡監獄(現在は刑務所)の高い赤煉瓦塀に沿った堀端を通った。

小学校の隣は商業学校、実践科商業で、反対側の隣は陸軍衛戍(エイジユ)病院があったが、今はす

べてをまとめ現在の大きな城内小学校になっている。この母校も昭和六十二年に創立百周年を迎えている。

小学校では一〜三年までが男女共学で、四〜六年では男女別となつて、私は男子進学組に編入された。六年生の時には放課後子習があつて、暗くなった堀端の道を監獄の煉瓦塀に沿って帰ったものであった。卒業まで三年間担任の山本寅平先生は永年勤続されていたが、その後、精華高等女学校へ移られた。現在九十四才で御夫婦とも御健在である。

井の宮から大正五年に開通した安倍鉄道の軽便が牛妻まで往復していた。或る日、父母等に連れられて牛妻の滝見物に行ったが、合僧の夕立ちでずぶ濡れになったが、親切な運転手の方が機関車のボイラーで乾かしてくれたので助かった。その安倍鉄道も時代の流れて昭和七年に廃業してしまつた。

静岡は安倍川の伏流水が豊富で私の住んでいた方面では堀抜井戸から地上に夏は冷たく、冬は暖かい清水が滾々と湧き出していた。東鷹匠町の級友の家附近では更に高い所まで湧き出して間断なく流れ出していた。水の豊豊にあつた静岡

にも、昭和八年に安倍川の伏流水を利用した上水道が通水を開始した。

大正六年四月に安東練兵場で、アメリカ人飛行士のアト・スミスがきて複葉機で宙返りをしていたこともあった。

大正七年の冬にスペインかぜが大流行して死者が多数出たので父も高熱を押して往診をしていた。

大正八年の夏には米価が異常に暴騰して、米騒動が全国に広まり父も在郷軍人として警備に狩出されていた。



昔も七間町・呉服町が中心街であったが、活動写真館も七間町に集中していた。キネマ館・電気館・立花館などがあって、西部劇や新

派、時代劇と賑やかであった。楽隊入りで活弁も数人が競演して行

名であった。寺町に芝居小屋の若竹座があった。有名な活弁で興業主でもあった駒田好洋がやってきて、「海底五万哩」という長編の活動写真をやっているのを見た。

映画の草分け的存在の人で、熱弁で全国を巡回していた、歴史に残る人物である。

西草深の外堀には安倍川の伏流水が滾々と湧き出していたのを利用して、これを整備して暫くの間プール代りに使われていたのすべて泳ぎに行ったが、なにしろ冷水で唇が紫色になり、寒くて震えていた。この代用プールもあまり長

続きはしなかった。大正時代の静岡は県都ではあったが小都会で、大手町の官庁街、城内の聯隊を中心に、御用邸などもあったが本場に静かな町並みであった。

宝台院の境内も広がったので正月にはサーカスや見世物が掛かり覗きカラクリ等もあった。屋台の店も多数出て市民の遊び場になっていた。浅間神社の祭礼、賤機山・清水公園の花見も思い出である。清水寺・軍神坊・安倍川の川

開きの花火も夏の風物詩である。

久能山や三保への遠出、日本平も大変な道程であった。夏は兄等に連れられて清水の江尻海岸や波止場からポンポン蒸気船で三保海水浴場へ行った。

安倍川原、徳願寺、吐月峰、丸子宿、用宗海岸、大崩なども当時ではそれぞれ一日の行程であった。

八十路を越えて遙かなる過ぎし頃を振り返ると現在とは全く隔世の感があるが、私の懐の中には古えの記憶が走馬灯のように甦ってくる。

### 静岡の万葉を歩く

(その二)

51期 原崎 郁平

浅間神社の東側に石鳥居が立っている。通学路にあたっていたので毎日この鳥居をくぐって通っていた。宮ヶ崎町の方から来ると石鳥居の右側に西草深公園があり、公園の中の長谷通寄りに万葉歌碑がある。

焼津べに わが行きしかば 駿河なる 阿倍の市道(いちじ)に 逢いし児らはも

春日歳首老(巻三二八四) 揮毫者は静岡の有名な書家青山於菟先生で、昭和三十六年に建てられている。高さ約一米、幅約二米

の堂々とした碑である。歌の大意は「焼津のあたりへ私が行ったとき、駿河の阿倍の市の道で逢ったあの娘さんのことがしきりに思われることよ」

左側に万葉副碑が立っている。本文は「万葉集は日本最古の歌集で、奈良時代西暦七〇〇年代の文芸の華である。その巻三の中に静岡の古名「阿倍の市」の名が見出される。これがわが静岡市に関する唯一最古の文献であり、万葉集ともに市の名を千載の後まで留めるのがこの歌である。歌の作者春日歳首老は和銅年間常陸国「茨城県」に役人として在任した人であるから、この歌はその旅の途次、静岡を通過して詠んだものである。私たち万葉を愛し、ふるさとを愛するものが相謀ってここに碑を建て、その由緒を記し、ふるさと人に捧げるものである。「昭和三十六年陽春三月、大石徳四郎、森豊、青山於菟」となっている。

この大石徳四郎さんは戦死した旧友大石憲一君の父親である。万葉副碑の裏側に「阿倍の市の由来」として次の文章が刻んである。「西暦二、三百年代には静岡地方に登呂、有度などの村落があって住民は農耕狩猟等によって生活していたことは登呂の発掘によ

って明らかにされた。降って奈良時代には大歳御祖神社のお祭に際し付近の村落からその地の産物を持ちよって市が開かれた。それが阿倍の市の起源であろう。その市の地域は静岡市史によると、現在の市の中心地である本通一丁目から三丁目にそう両替町、上石町、梅屋町、人宿町、七間町などの範囲と推定される。なお一説によると昔は大歳御祖神社は別雷神社とともに農商の神として祭られていたがいつの頃か賤機山麓の浅間神社境内に移されたのだという。さすれば阿倍の市を記念する万葉碑の建立はこの場所が最も適当であると考えられるのである。

青丹よし 奈良人の目にも

とまりけむ

阿倍の市場の 花のおとめ子

石鳥居付近は中学生の頃の色々な思い出がある。毎朝の通学時に小学校の時に隣に座っていた女の子とすれちがうが、当時は男女の交際は今のよう自由でないの昨日まで同じ校舎にいたのに、中学生と女学生になると逢ってもお互いに目を伏せて歩き、挨拶もしない。そのくせ朝になると今日はあの子に逢えるかしらという思いがよぎる。中学生の五年間に一度

も挨拶しなかった。それから数年後、小学校のクラス会を男女合同で開くようになり、今では親しく交際している。

石鳥居は全校の運動会のマラソンのコースになっていた。往きは先頭の集団に混じって勢いよく駆け抜けて行ったのに、復路は先頭から随分遅れ、しかも息も絶え絶えになって帰って来たことを思い出す。

石鳥居は位置も大きさも色も変らずに今でも立っている。浅間神社境内は緑の樹木が多く、昔と大して変わっていない。この辺を歩くと春のお祭りの賑やかさが忘れられない。

### 静岡方言残片

55期 相川富士雄

私の家内は東京生まれの東京育ちである。それが、戦後、私の転勤に伴って、十年あまり静岡で暮らしているうちに、断片的ではあるが、いくつかの静岡方言を覚え、その後、三十年以上経った今でもときどき静岡の方言が出てくる。

そもそも方言というものは共通語になおすことが難しい場合が多く、大体の意味を伝えることはできても、その方言に含まれた面白

みや暖かさを伝えることはできない。

そのうえ、長い間静岡で暮らしていないので、それらの言葉が現在の静岡で生きているかどうかもわからない。だから、若い諸君がこの小文にでてくる言葉を理解してくれるかどうか自信はないが、ともかく思いつくままに並べてみることにする。

そらつかって 知っているのに知らないふりをして、とほけているというような場合に使う。

しらっくら 「もう駄目かと思つたが、しらっくらもっている。案内持ちなおすかも知れない」というように用いる。

つくなる 「あらあら毛布が足もとの方につくなっちゃって」私は東京都の清瀬にある結核研究所の付属病棟で療養中、静岡出身の付添婦にこういわれてうれしくなつた記憶がある。

やつきりする 共通語にあせてむぎになるという意味で躍起になるといふ言葉があるが、それに腹立ちと逆上を少しずつ加えたものでもいふべきか。

おだくって 共通語でいえば、おだてられてだが、おだてられてつい乗ってしまったものに対する軽蔑の気持が若干含まれている。

みるい これはあまり感心しない言葉が多い静岡方言のなかでは稀に見る美しいことばである。野菜などにも使うが、生まれて間もない赤ん坊の小さな可愛い手もみるい手だという。共通語としてとりいれてもらいたい誇るべき言葉である。

以上、ごく断片的ではあるが、これらの言葉を聞くたびに、遠い昔の静岡の風景が、それも、県庁前の外堀にまだ蓮根がつくられていて、蓮の葉が風に揺れ、中町の大きな柳の木の下で、人力車の夫が客待ちをしていた昭和十年ごろの、時間がとまってしまったような、のんびりした昔の風景がふつと思ひ出されてくるのである。

### 「ブラジルと日本」考

60期 山本 正三

一九六〇年代の中頃ブラジルに縁ができて、各地を実地見聞する機会にめぐまれた。六〇年代の後半から七〇年代の前半期にかけての経済の高度成長ぶりや、深刻な石油ショックの影響や、さまざまにインフレの進行や、首都ブラジリアが広野のまっただ中に建設され始め、超近代的な都市ができあがるまでをしげしげ目をみはり、

感嘆の声をあげながら見てきた。この国は進歩と秩序を国是にしてきたが、何事によらず絶えず、そして激烈に変化しているという印象をうける。夢をみたくなるような美しい山、広大な沃野、莫大な資源がこの国にはいたるところにある。そのかわり失望の淵もいたるところにある。

雨あがりの田舎道でダイヤの大きな原石をひろったとか、タダみたいにあく牧場を買ったら、その牧場のある山が高品位の鉄鉱石でできていて、突然鉱山会社が数十億円で買収してきたとか、アマゾンで砂金をみつけて大もうけしたとかいった類の話がまことしやかに毎日のように聞こえてくる。アマゾンのゴルドラッシュをみると全く根拠のない話でもないらしい。

一獲千金の夢破れて夜逃げし、サンパウロまで数百キロも歩いてきたとか、ひどい霜でコーヒーがいためつけられ、前の年の高値でもうけた金をいっぺんに失い、破産の憂き目に遇ったとか、いずれは日本に帰るつもりで蓄めていたが、インフレのために貯金が無駄になってしまったとかいった気の毒な話も数限りなくある。そんなことの中で忘れられない

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック  
ねつ  
**熱**

かん  
**函 病 院**

院長 小坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2  
TEL 0557-83-3131

株式会社 **富士越**  
株式会社 **富士越化成**

代表取締役 野澤 正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9  
TEL(409)3342代  
TEL(400)9541代

話は、日本の某電子工業会社のブラジル支社長さんから聞いた次のような話である。彼はブラジルにくる前、ニカラグアの同じ会社社の現地法人の責任者で、この国に永住することを決めて、子供たちには現地の教育をうけさせていた。しかし、七九年に社会主義政権ができ、新しい憲法がこの国の国民になりうる資格に東洋人が含まれていなかったたので国外退去をせざるをえなくなり、ブラジルに移ってきた。

ところが、ブラジルの政治と経済の状態をみると、この国でも社会主義革命の潜在的可能性は相当高いので、同じような事態が生じないという保証はないようだ。社会主義政権に限らず、どんな政府も政治経済状態が悪化すると、国内の少数民族をスケープゴードにして、かれらに社会不安の責任を負わせるからだ。

ブラジル日系人、とくに有力者の中にはそういうことが起らないか懸念している人が少なくないことがわかった。この国にいる日系系の人々やポランド系の人々からそういう懸念をたびたび聞かされてきた。

かれらは子供たちに家ではドイツ語やポランド語といった母国

語を話させ、バイリンガル(二カ国語併用)を当然のこととするが、それは母国との連絡を密にし、あるかもしれない強制退去に備えようとしている。ドイツ人から、第二次大戦後、東欧からドイツ系住民はドイツ人であるという理由で強制的に退去させられたが、かれらの先祖は十三世紀・十四世紀といった大昔に東欧各地に住みついていたのに、ドイツ系住民はポランド人ともチェコ人とも認められなかった。

この支社長さんは、自分をはじめてバイリンガルということの意味がわかった、と実感をこめて話して下さった。そして、母国語とか民族というものがどんなに重要なものか強調しておられたのがとても印象的であった。

昨今、日本にはブラジルから日系人が数万人も出稼ぎにきているが彼らの中には、日本語が全くわからず、日本になじめなくて、やむなく帰国される人もあると聞いている。いろいろ考えさせられる問題である。

(註：山本正三氏は今春、筑波大学を定年退職し、独協大学に奉職されました。)

## 佐渡紀行

61期 浅野 徹治

この連休に夫婦で佐渡へ行って参りました。佐渡のイメージはどうしても「荒海に横たう天の川」が、まず頭に浮び「動と静」「荒涼と静寂」の旅の首途としては、あまり浮かれる気分にはなれませんが、ところどころは新潟から両津迄のジェットフォイルの速さに驚かされました。時速四十三ノット、一ノットは一時間一海里(千八百五十二米)ですから、私達戦中派は当時の新鋭駆逐艦の最大戦速が四十ノットと云う事を覚えています。時速八十キロ、一時間で両津港に着いてしまいました。順徳帝、世阿弥、日蓮等が流された頃は、どの位かかったのでしょうか。

両津からはバスで大佐渡を一周致しました。海岸線を走る車窓からは満開の山桜と松の緑が果てしなく続きます。亀島から外海府に入る約一時間、磯辺の遊歩道を歩きました。海の水の綺麗なのは、この島に大工場も無く、リゾート開発もまだ未だの段階である事も一因となっているのでしよう。

外海府、尖閣湾と海岸美を堪能して相川に佐渡一泊目の夜を迎え

ました。金山華やかなりし頃の榮華はどこへやら相川は静かな廢市であります。

翌朝バス出発前の一時間、タクシーを駆って瑞仙寺、妙円寺、大安寺等を廻りました。大久保長安が生前に建てた自分の墓は屋根をもった石室に宝篋印塔が納つて、さすが能役者の血すじを引く彼の審美感がかがえるものでした。

二日目は金山坑道めぐりから始まりました。ここへ送り込まれた無宿人が働かされた揚水作業が人形を使って復元されています。シジフォスの神話さながらの過酷さもさる事ながら、ネジの原理を応用したその揚水機の卓抜さは、後で調べて見ると、十七世紀始め頃からここで使われていたとの事、日本人の科学技術の優秀さを今更ながら実感させられました。それとタガネとツチの手掘りで徳川三百年間、四十一トンの産金量が昭和に入つて閉山迄の六十三三年間で二十二トンと云う量も近代技術力の差、及び資源渾濁の問題を考えさせられました。国仲、真野の郷に入つて重文の五重塔をもつ妙宣寺へ参りましたが、この塔、瓦葺き屋根ですの聞いてみると昭和の始めに檜皮葺きから瓦に葺きかえたとの事、暴挙と云うべきでしよう。

日蓮ゆかりの根本寺を経て、コレヒドール死の行進の責を負わされた悲劇の文人將軍、本間雅晴中将の碑に続いて、土田麦邊、北一輝の生家の指示標を車窓から眺めながら両津の街へと入り、第二夜を迎えました。夜、ホテルのロビーで「両津甚句」「相川音頭」「佐渡おけさ」の踊りを見ました。民謡には弱い私ですが、黒ちりめん の裾と袖に少し青海波の模様のある衣装、鳥追笠で面をかくした男女六人の優雅な踊りに、今でも数多く能舞台が国仲にあると云う世阿弥ゆかりの地、「秘すれば花」の影響を見たのは私だけででしょうか。これは拾い物でした。三日目は佐渡随一の寺格を誇る蓮華峰寺を訪れました。古寺は真言密教の寺に限ると五年間の関西生活で確信した想いを新たに致しました。旅の終りは小木のたらい舟でした。わずかな十分たらずの座興でしたが、遠い少年の日、生れ故郷の田舎街の芝居小屋兼活動小屋にかかると旅浪曲師の「佐渡情話」のつたない広告看板をなつかしく想い出しながら二泊三日の旅は終わりました。

### 新生、白鳥良香氏

#### 県議に

67期 望月 政男

関東同窓会が、ますます充実されておられるの様子、心強くご同慶にたえません。

さて、去る四月七日投票が行われた戦後第十二回目の統一地方選挙において、白鳥氏は静岡市より県議会議員候補として立候補し、念願の当選を果たし、ここに67期初の県議会議員が誕生しました。

白鳥氏は市議会議員連続5期20年の実績をもとに、67期の諸氏を中心に支援の輪がひろがり、加う



るに同窓の方々の心暖まるご支援を得て、無所属新人ながら見事に当選、新県議誕生となりました。

ここに紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

今後の白鳥氏の活躍を期待すると共に、皆様方の一層のご支援をよろしくお願い致します。

因みに、このたびの県議選の結果、静岡市区定員10名中5名が静岡出身者で占められ、郷土静岡でも同窓生の活躍が目立つ昨今です。

### 老化防止のために

70期 大長 智

同郷、同窓、同志と、長い人生

にはいろいろなグループの人との交わりがあるが、私にも中、高、大学が同じという友達が多くいる。中でも勤め先まで同じという人を何人か知っている。七一期の川村祐三、児玉文男の両氏、七六期の北村修氏等今でもお世話になっている。北村氏は妹(阪本咲美)と同期であり、彼の兄貴は私と同期だったので、何かと親しく感じている。その勤め先も今年の三月末を以て定年退職となり、出向中だった(財)工業所有権協力センターに引き続き勤務している。

この財団は法に基づく特許庁の指定調査機関で、スーパー30一条を背景に特許審査期間の短縮を迫る米国の要求に日本政府が公約した措置を達成するために、特許庁の諸施策の一部を受託実施している所である。

児玉氏は、新日鉄の知的財産部長の要職にあり、私の二次の勤めでも色々お世話になり、この職場に於ける私の保証人にもなっていた。

仕事の主たるものは、出願特許の先行技術の有無を調査するのが、審査官としての経験のない民間の技術者が、膨大な特許文献から先行技術を捜し出すことは至難である。

特許庁では検索の機械化を推進するに当たり、新たに技術テーマ毎の分類キーワード(Fターム)を考案し、これにそって明治以来の特許文献を再分類しつつある。Fタームリストの作成は特許庁に協力して行なっているが、出来上がったものから過去の文献にFタームを付与している。この仕事は人海作業で、全国から在宅の解析者を募集し、文献を送付してFタームを付与してもらって返送、チェック、コンピューターへの入力という大変な仕事になっている。

平成三年度の計画として、解析件数二〇万件、解析者数二九〇〇人となっているが、技術分野によっては解析者集めに困難をきたしているのが現状だ。大学の名簿を頼りにダイレクトメール等により、募集活動を行っているので、

同窓会員の中にはその業書を受け取った方も居られると思う。老化防止のために、また国家的見地から、技術者の少ない先端技術に携わっておられる方の格段のご協力が得られる事を願っている。

興味のある方は是非一報頂きたい。検索システム、作業等説明出来ると思う。この作業が終らないと肝心の先行技術検索が滞ることになる。付与文献のチェックと検索作業はFタームリスト作成業務と共に財団に勤務する研究員により行われている。研究員の大部分は企業からの出向者で、今年一月に私と同じ七〇期の宮崎勉氏(本州製紙よりの出向)も来られ旧交を温めている。

研究員は、現在二八〇名だが、来年末には四五〇名程度になり、平成五年度以降には一〇万件的検査体制となり、日米摩擦の解消に一役買う事と信じている。企業の年滿近くの方で研究員として協力していただける方も歓迎

されるので、一度錦糸町駅前の東京トラフィック錦糸町ビルまで足を延ばしてみたいかが。蛇足ですが、ここでは六五才迄働ける様になっている。

(財)工業所有権協力センター  
電話〇三―五六〇〇―二六〇一

### 同窓会に思う

#### 強く美しい絆

71期 石川 宏

同窓会とは何か…… 一口で結論を言えば、〃情報化社会における癒しのネットワーク〃ではないだろうか。

最近読んだ先生方のご意見を拝借し、勝手に引用させていただいて、以下に思うところを披露してみたい。

「情報化と言えば、情報の量が多くなるから、決して幸せにはならない。気持ちが悪くならない。」

こうした疲れが、社会的にもかなり広がってきており、いま、このような沸騰した消費文化を抑制するものが何かに必要になってきている。

人間の幸福は情報量の増加によ

って拡大するというよりは、むしろ情報量を制御することによってノイズもすくなくなり平安になるという哲学がアラブにはあるようだ。明らかにイスラム思想の影響を受けたこの抑制的な『情報』の考え方は、今日の私達の『情報社会』にも一脈通じるものがあると思ふ。』（甲南大学助教授奥野草司著『宇宙からのノスタルジア』ジャストモアイ五月号、ジャストシステム刊）

奥野さんはここで現代の情報化社会の疲れを指摘し、その解決の方向を示している。

「現代ほど癒しが求められている時代はない。表面的には我々は豊かな繁栄の時代を生きているのかもしれない。しかし、われわれの『いのち』はもはやぎりぎりのところまで、追い込まれている。その『いのち』の苦しきは、気づかなければ済ましていられるというレベルをとうに越えつつあるのだ。われわれの『いのち』も地球の『いのち』もいま叫び声をあげている。それはここで気づかなければ、ある日突然死となって現れることだろう。

そして、その苦しきは、われわれが『つながり』のイメージを喪失してしまつたことから来ている。

『つながり』を失つた孤独な魂が自分自身を痛めつけ、他人を痛めつけ、地球を痛めつけている。誰もがそこに痛みを感じながら、しかしその悪循環から逃れる術を知らないまま突っ走り続けているのが現代という時代なのだ。

僕達がいま欲しいもの。それは表面的な癒しではなく、心も身体も、僕も君も、そして人間も地球もいきいきとしていくような、深い癒しである。それは『いのちのつながり』のイメージを取り戻すことから始まるのだ。』（文化人類学者上田紀行著『スリランカの悪魔戯い』徳間書店刊）

上田さんの言うこの『いのちのつながり』は、クころの絆であり、同窓会というコミュニケーションリレーションズの世界にこそ存在するものだと思う。

「同じ釜の飯を食った仲」はとにかく強く、美しい。せいぜいこの絆を大切にしていきたいものである。

### 昨今雑感

76期 鈴木 浩

湾岸戦争も終り、やっと一つの問題がかたづいた感じであるが、残された、そして新たに起きた問

題に心いたむ昨今です。

その中で私達のこの日本の立場はまったく目をおおいたくなるような感じだ。あちら立てればこちら立たず、まるでいじめられっ子の様で、情けなくなりませう。金を出すが（出してもらうが）口を出さない（出せない）日本のイメージが定着しつつあり、まさしく経済は一流、政治・外交は三流の感じが致します。

話はがらりと変わりますが、私は毎日曜日テレビアニメの「ちびまる子ちゃん」のファンであります。私より二昔近く後の時代の小学三年生がモデル、そして、清水市が舞台のアニメで、それなりになつかしく楽しんでいます。

日本の外交もあのクラスの人間関係の中でマルコ並みに、たくましくなつて欲しいと思います。

### 代議士 村田吉隆君

79期 上田 尚亮

七九期の村田吉隆君は、去年の総選挙で岡山二区（倉敷方面、吉備の国）から初めて当選しました。さる三月一日、静岡市で七九期有志主催で「村田吉隆君の衆議院議員当選を祝う会」がもたれました。当時の教頭先生であった北

川先輩、前建設大臣原田昇左右先輩の御列席をいただきました。約七十余人が、東は東京から、西は大阪から馳せ参じ、盛大な会が行われました。特に、原田代議士からは「同じ宮沢派であり、静岡の後輩である村田君には、自分以上に頑張ってほしい」等、暖かい激励のことばをいただき一同感謝感激いたしました。

村田君は一九六三年に静岡を卒業、京都大学法学部卒業後大蔵省入省。すぐにフランス、グルノーブル大学に留学、一九七三年三月から中華人民共和国へ日本大使館開設にもない北京に。二十一年間の大蔵省勤務の後、岳父の藤井勝志元労働大臣の岡山二区から出馬し、初当選。

引退、地盤を引き継いでのパターンでなく、本人の政治家への転向の決意の関係等で、選挙が一回あいたため、藤井氏の後援会が解散したため、一からの苦労だったようです。なにせ岡山二区は今を

時めく橋本竜太郎大蔵大臣、自由民主党政調会長加藤六月諸氏の地元です。前回は消費税の選挙で、大蔵省出身、無所属で大変だったことでしょう。週刊誌の予想では無印でした。

本人の挨拶のなかで、選挙民か

ら「どうせ静岡へ帰るのだから」といわれて、相手にしてもらえなかつたり、「水」をかけられたりしたこともあるし、街頭演説もなかなか勇氣のいることだったこと。そして、受験勉強のようにこつこつと努力して、なれるものではなく、代議士への道は遠いものだと感じた日々であったこと等々、生々しい報告がありました。

彼らしい、素直な話のあと、卒業後二十八年ぶりに会った友をもまじえ、楽しい酒がはじまりました。酒も飲めなかつた彼が、一人一人と杯を交わしていくのを見ると、四十なかばで新たに挑戦していくエネルギーと選挙が彼を逞しくしたのだからと一同認識した次第です。相撲でいう稽古で大きくなっていくということでしょう。

村田君は明るくやさしく、素直な静岡人気質だし、ユーモアのセンスも十分あります。また身長も一八〇センチほどあります。諸先輩、静岡の同窓の御指導、御鞭撻をいただき、印高の精神を忘れず、国際政治社会で通用する政治家になつてくれることと思います。

三時間もあつたというまに過ぎ、校歌斉唱後、楽しい会もお開きになりました。



「…んだなあ、…別だなあ…」  
御老人は、青森の生まれの人で今は駿河に移り住んでいるらしい。

幼少時には、事あれば民謡が湧き出し、舟が戻れば謡い、米が実れば謡い、祝い事があれば盛大に呑み話ったという。口から出る内容が難しく、抽象的な点もあったが、感觸で伝わってくるものを感じた。理詰りな技巧的な事には一つも触れず、唯々自分の耳で聞いた上手い三絃の音との違いを論ずるように説いてくれた。

貴重な体験であった。  
我々はそこで更に三十分程の間を共有した。老人は、私と父が居る宿に湯治に来ていた。

宿に戻ると、四人組は相変わらず大きな声で、政治問題から若い時代の艶やかな自慢話まで振りまいていた。父は、再び湯殿に向向いたのか姿は見えなかった。  
…現場のことかサ、社会勉強っていうの…？ つい先程の会話が頭に浮かんだ。カタさとは、そういう事なのだろうと思った。

それから私も湯につかり、湯上りのビールを二本たて続けに呑んだ。

「若いの、三絃やるんだって？」  
奥から声がした。

父が喋ったらしい。呑むとすぐに口が軽くなるのが父の困ったところである。  
山で一緒だった御老人がその傍に坐つてにやにやしていた。  
「ひとつ、弾いて聞かせろや、なあ」  
あちらこちらで拍手が起こっ

# 静岡だより

## 七間町が リフレッシュ

戦前派にはずらん灯が、そして戦後は、映画街の賑わいが懐かしい七間町が、この四月リフレッシュ、通りの面目を一新した。

通りの道路は石畳(御影石)、歩道は薄ピンクの大理石で見た目にもゆつたり、環境デザインにも配慮されている。とかく問題だった自転車置場も数カ所に設けられ、歩道側にはベンチも置かれるなど、工夫も凝らされている。

こうした「人にやさしい街づくり」のコンセプトによる設備や空間づくりのほか、「街に緑を」では静岡市の木でもあるケヤキが植えられた。

た。皆、気持ちのよい程の赤ら顔である。  
未だ人に聞いてもらえない音じゃあ…。言つて断りたかったが、ほろ酔い加減になつていた私は、脈ははじめた手首のことも忘れて、三絃を組み立てはじめた。

平成元年の紺屋町の「ランバートストリート」の完成に続いて今回の「七間町モール街」のリフレッシュ、さらに青葉通りの「青葉シンボルロード」など、静岡市内ではいま街の表情が一新されてきている。呉服町通りのリニューアル構想も進行中だという。

(67期 光木 徹)

## 野球部の近況

静岡との第三十三回定期戦は、五月三日午後一時から、静岡球場で行われた。

今や近鉄のリリーフ・エースとなった赤堀の活躍や、阪神に入団した山崎の話題で、後輩の活躍が期待されている静岡野球部だが、静岡の十三安打の猛攻を受けて、

二対十一と惨敗の結果となった。試合開始早々、三塁側静岡ベンチが沸いた。静岡先発の遠山を攻めて三塁打、セフトイー・スクイズ、エラー、ヒットと一挙三点。続く二回にも二点、四回に一点と加点され、五回には三番手の望月正が二点本塁打など長短打の集中砲火を浴びて五点を献上し、試合の大勢が決まった。

一方静岡は服部一山の静岡投手リレーを崩せず、四回と五回に一点ずつを挙げただけに留まり、結局二対十一と大差で破れた。  
この結果、戦後の定期戦の対戦成績は静岡の二十一勝十二敗となった。

昨年の秋季大会では、選抜出場は紙一重の差で三重高に譲ったものの、望月正・遠山ら投手陣の活躍で東海大会ベスト四に残った実績から、今年も春・夏の活躍が期待されたが、定期戦をみる限りでは、甲子園への道は先が長いと感じた。

静岡	3	2	0	1	5	0	0	0	0
静岡	0	0	0	1	1	0	0	0	0
静岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	2	11							

一方、公式戦の方は、五月五日

より東部・中部・西部地区代表各四校の十二チームによる春季県下大会が開催されたが、中部地区二位で出場した静岡は、初戦浜松商に十対三の八回コールド勝をしたものの、準々決勝で日大三島に、三対四で惜敗した。春の県下大会を制したのは中部地区三位であった東海大工で、未だ各校共に調整不十分の感は免れず、実力がどの程度か混沌としているのも事実である。  
(85期 吉水 広)

国際線航空貨物・海外旅客取扱  
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

## 株式会社ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬敏雄 (70期)

〒105 東京都港区浜松町2-8-9 春原浜松町ビル  
貨物電話 434-0591 (代)  
旅客電話 437-5861 (代)  
FAX 434-5537

### 千葉眼科記念館を

訪ねて

70期 久沢 正雄

(日本ビクター(株)  
オーディオ研究所)

風薫る五月初旬のある日、私は千葉県茂原市にある千葉眼科記念館を訪ねた。それは二百年の歴史があり、日本的な医療機関の先達として全国的にも有名な「永吉の眼科病院」院長を故千葉保次さん(45期、平成2年11月23日逝去)がされ、昭和五十八年から二年の歳月をかけて病院を新築されたとき、旧診療所・書庫・宿泊所などを記念館として保存したものである。

千葉さんは旧制静岡中学を四年で修了後、旧制静岡高校に学ばれた。当時そこで教鞭をとっていた私の父が退職後も七年半前亡くなるまでは年に数回、大磯まで訪ねて下さった。私も時折同席し、千葉さんが五十年前の老師を前に、丸い眼鏡の奥に小さなやさしい目を輝かせて、最近の医療問題などについて熱心に話されるのを聴かせていただいたものである。さて、記念館では奥様と義弟の千葉東弥さん(千葉葦草研究所長)が迎えて下さり、丁度見学のため

米合せた近在の方々と一緒に案内していただいた。

同館の詳細については千葉保次著で平成二年八月に発行され、毎日新聞にも大きく紹介された「永吉の眼科病院」に記載されているのでここでは省略するが、二百年前の応診用加籠から、今日に至るまでの医学書・治療機器など数多くの貴重な資料が展示され、新しい技術だけでなく、古い文化遺産も大切にするという千葉家の良き伝統に感動した。中には江戸時代にオランダから輸入された眼球ストレーキ(分解可能な解剖模型)で、今では世界に二つしか無いという超国家的な価値あるものもあった。

新しい病院も偶なく見せていただいた。最新の設備・医療機器に門外漢の私はただ感心するばかりであったが、その中で心を和ませてくれたのは、院内の至る所に飾られた絵画類だった。その主なものは平岡望見さんの版画で、子供達が野や山、海で遊んでいる風景をいよゆる素朴画に描いたもので、千葉さんの大のお気に入りだったそうである。ともすれば不安になりがちな患者の心を少しでも和らげようとする千葉さんの優しい心遣いが伺えた。

最後に故千葉保次さんの御冥福をお祈りすると同時に、皆様方にもぜひ一度記念館を訪ねられることをお勧めする。なお、「常時開



いつも乍ら御無沙汰して申し訳ありません。本も読まず、詩もつくらず、唯ぼんやりテレビばかり見て過して居ります。外に出掛けることと言えは犬の散歩位のものです。しかし、お陰様をもって健康に過して居ります。

いつも御手数をかけて有難う御座居ります。二年度会費払込の通知を貰いましたが、二・七・四に二〇〇〇円振込み済です。三年度の会費を振込み申し上げます。

どうぞ皆様も御元氣にお過し下さい。年毎に 知恵鈍りゆく 老いし身に 為すべきことの まだ少しあり

いつも冬になると犬にひかれて山野を歩いて、身体だけは丈夫で居ります。

48 岩崎 鑑一  
49 佐野三樹雄  
50 佐野三樹雄

平成二年度の総会は欠席して、失礼しました。長らく白内障で不自由していましたが、今年の三月に手術してすっかり視力を回復しましたので、今年度の総会には是非出席したいと思っております。末筆ですが幹事の皆さんには、心から感謝しております。

51 伊藤 瀧吉  
52 伊藤 瀧吉  
53 小野 一夫  
54 小野 一夫  
55 佐野 豊彦

一年一回のベニスで外遊、昨年は英国へ。ホームパーティーやドラマイブに誘われ、彼等の優雅な日常生活の一端を知ることができまし

### 感謝と緊急お願い

日本の出版界の国際的地位の向上などに大きな貢献をされた講談社四代社長野間省一氏は、昭和五十九年八月十日、七十三年の生涯を閉じました。野間氏は旧姓高木、静岡の城内小学校から静岡中学(44期)へ、四修で旧制静岡入学、昭和九年東大法学部卒業の学歴で満鉄勤務の後、十六年に野間家に入婿しました。

講談社では昨年夏より『野間省一伝』刊行の準備を始め、現在、資料蒐集や取材を続け、44期の同級生の方々など多くの皆さまに協力していただいて、心から感謝しております。

なお、この機会に次の点などについて、同窓生各位にお伺い申し上げる次第です。  
。野間省一についての御記憶で、印象に残っておいでのことや、エピソード など

メモ書きのようなもので結構です。左記あて、一筆お力添え頂ければ幸いです。よろしくお願ひ申しあげます。  
〒189 東村山市青葉町三二五十三 上杉重吉(60期)

た。併し、何処へ行っても貸家貸  
ビルの空気が目につき、決して景  
気はよくないようです。やはり日  
本が一番いいですね。

なお、同窓会に出席できないと  
き会費納入をどうしたらよいか。  
(事務局)

会報と一緒に振込用紙を送りま  
すから、それで送金願います。

56 伊東 卓爾  
会報三十号に、松村博司先生を  
偲ぶという先輩磯野さんの投稿を  
拝見し、私もなつかしく読ませて  
いただくと同時に、先生がおなく  
なりになったことを知り、びっく  
りしました。一昨年でしたか、図  
書館で先生の本を拝見したし、一  
年の時国漢を教えていただいたか  
らです。

56 伊藤 象一  
お手数をかけます。病氣療養中  
です。よろしく願います。

60 原 善三郎  
ひきつづきNHK日本語センタ  
ーで仕事をしています。

適当に働き、適当に遊び、見  
たいもの見て、聞きたいものを聞  
く、そんな暮らしを心がけて健康  
第一にと考えているこの頃です。

61 松永 典昭  
一年のうち一〇ヶ月は外国暮らし  
ですので同窓会などへ参加できず

残念です。今外国では下記の所に  
おりますので、フィリピンにお出  
での節はお立寄り下さい。

87, United States St, Better  
Living Subd, Paranaque,  
Metro Manila, Philippines

64 山本 光夫

「パトス・コーポレーション」  
新会社を二月に設立する予定で、  
同期会同窓会の幹事代行業務と結  
婚紹介業をメインとします。

69 小林 泰三

湾岸戦争も、ようやく終止符状  
態を迎えましたが、日本人の脳裡  
の中に、メディアを通して、鮮烈  
に蘇ってきたイスラエル。

「消えた十部落」を追って、只今  
ヘブライ語を五十の手習中です。

何か情報がありましたら、どなた  
か御教授下さい。

70 北村 孝

北の港・小樽も小生が喧伝する  
までもなく観光地として定着した  
ようです。

最近はず連船の入港が頻繁で、  
ロシアの異国情緒も味わるる街に  
なりましたが、春が来る頃には転  
勤になりそうです。

71 富野 寿

難しいでしょうが、若い人達を  
もっと集める事は出来ないでしょ  
うか。

(事務局)

各期の幹事諸兄の尽力に期待し  
ているのですが……。また、幹事  
不在の期は至急決定して報告して  
ください。

72 仁藤 宏次

商売がら、土、日曜日の休みが  
とれず、又、営業時間も遅いため  
いろんな集りに出席出来ず、残念  
に思っております。

73 西本 昇平

同窓会や同期会の活動になかな  
か参加できなくて、残念です。不  
思議なことに、同窓会同期会の開  
催日にはいつも偶然、海外に行っ  
てしまっているのが理由です。今  
年は、仕事の予定や家庭の事情と  
かも合わない日が開催日となるよ  
うに、期待しています。

77 鈴木 宏治

昨年(一九九〇)四月に三年間  
のマレーシア駐在から、帰国しま  
した。当地では、南シナ海におい  
て、海底油田の開発に従事してお  
りました。

77 武田 恒章

元気でがんばっております。時  
々、静岡には帰っております。

77 松永 秀夫

昨年七月末、五年半振りにカイ  
ロ駐在から戻りました。久し振り  
の日本の正月をゆっくり過しまし

たが、まだ実感が湧きません。

77 杉山 武

東京在住の七七期の仲間で作っ  
ている「七夕会」には、毎年七月  
七日前後に集っております。

79 有川 和子

子供が小さく目下小学校のPT  
Aの仕事をしております。皆様の  
御多幸をお祈りします。

82 宇野 明彦

昨年一月より静岡に帰り、馬淵  
にて、父の後を継ぎ、開業してお  
ります。御用の節は是非御連絡下  
さいませ。どうぞ、宜しくお願  
い致します。

95 池野 雅哉

帰省する時間もなかなかとれま  
せん。いつも会報を楽しみに拝見  
しております。

103 早乙女道彦

平成三年四月より静岡県の高校  
教員として働くことになりました。  
住所は高校時代と同じところ  
に戻ります。

### ●年会費未納の

### 方へお願い

### 二千円の拠出を

### ぜひよろしく!

本をつくること——  
それは生きてきた一つの証

自叙伝・回想録や句集・歌集、また小説・論  
文・エッセイなど残しておかれたらいかが。

印刷  
造本 庵原印刷所 庵原悌次 (54期)  
東京都北区上十条4-4-15 電 03-3908-3253

建築設計・監理

## ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号  
東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル  
TEL 03-363-8604 (代表)

## 鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44期)

清水市入船町11-1  
Tel 0543 (53) 3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F  
Tel 03 (284) 0551 (代)

## トッパン・ムーア株式会社

宮澤次郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6  
TEL (295) 2411 (大代表)

## 凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1  
TEL (833) 2111 (大代表)

## 新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル  
TEL 03-553-8981 (代表)

## 株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21  
TEL (271) 2701 (大代表)

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田645  
TEL 0542(62)1111 (代)  
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル  
TEL 03(272)4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

## 株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤徹 (59期)

本社工場 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246  
Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547  
大和工場 大和市深見3706-1 〒242  
Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343  
東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355  
Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築コンサルタント・設計施行業務  
建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階  
TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

## 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53期)

取締役社長 奥野進 (56期)

取締役副社長 奥野広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル  
Tel 03-842-6831 (代表)  
静岡事務所 静岡市安東2-8-14  
Tel 0542-46-9378

総合広告代理店

## 株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階  
TEL 03-254-2171 (代表)